

持続可能な消費と生産パターン転換のための政策デザインと LCA

オーガナイザー：平尾雅彦（東京大学）・田崎智宏（国立環境研究所）

2015 年に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」¹⁾に示された持続可能な開発目標(SDGs)の 12 番目の目標は「持続可能な消費と生産(SCP)パターンを確保する」であり、他の目標にも大きく関係し、重要であるといわれている。アジア地域では、目標 12 の達成に遅れがあると報告されている一方で、SCP パターンがどのような状態を指すのか、その確保のためにどのような施策を講ずれば良いのかは明確ではない。

環境研究総合推進費・戦略的研究 (S-16)「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価(PECoP-Asia)」は、消費と生産の連携の強化を通じて、SCP パターン定着のための政策デザインを目標としている²⁾。2018 年に「アジア太平洋持続可能な消費と生産のための円卓会議(APRSCP)」と共同で、SCP 政策の 4 つの方向性と 12 の機会を示す政策提言³⁾を発表し、SDGs 時代の政策は長期目標に向けて社会・経済・技術を総合し、多様なステークホルダーの参加型プロセスによってデザインされるものであることを示した。本企画セッションでは、日本 LCA 学会誌 15 巻 2 号特集「持続可能な消費と生産」⁴⁾で報告した研究成果などを報告し、LCA を含む定量評価の政策デザインにおける役割を参加者と共に議論する。

研究報告 (各発表 12 分、質疑 3 分)			
9:20 - 9:35	持続可能な消費と生産パターン転換のための政策協働デザインと定量研究に求められる役割	田崎 智宏	国立環境研究所
9:35 - 9:50	持続可能なライフスタイルの LCA 研究と政策デザイン	小出 瑠	地球環境戦略研究機関
9:50 - 10:05	LCA 事例から提言するシェアリングエコノミーのあるべき姿	天沢 逸里	東京大学
10:05 - 10:20	新国富指標と政策デザイン	Alex Keeley、 馬奈木 俊介	九州大学
10:25 - 10:30	SDGs 時代の政策デザイン	堀田 康彦	地球環境戦略研究機関
総合討論 (15 分)			

参考文献

- 1) United Nations: Transforming our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development (2015)
- 2) 環境研究総合推進費・戦略的研究(S-16)(PECoP-Asia): <http://www.susdesign.t.u-tokyo.ac.jp/s-16/>
- 3) PECoP-Asia and APRSCP: “Reconfiguring Consumption and Production in Asia and the Pacific - 12 Opportunities for Accelerated Achievement of SDG12 -” (2018)
Policy Brief: http://www.susdesign.t.u-tokyo.ac.jp/s-16/docs/policybrief_A4_180706.pdf
Policy Report: http://www.susdesign.t.u-tokyo.ac.jp/s-16/docs/PECoP_Policy%20Report_ENG.pdf
- 4) 日本 LCA 学会誌 特集「持続可能な消費と生産」15(2), (2019) pp.135-173